

持続可能な物流の実現に向けた レンタルパレットの活用事例

JPR 日本パレットレンタル株式会社

2025年8月25日



本日の内容

- JPRについて

<レンタルパレット導入事例>

CASE① 冷凍食品メーカーA社様

CASE② 菓子業界



JPR 日本パレットレンタル株式会社

Japan Pallet Rental Corporation

- 設 立 1971年12月
- 資本金 4億9,962万5,000円
- 売 上 約300億円
- 社員数 361名
- 本 社 東京都千代田区
- 事業所 札幌・仙台・埼玉・東京・名古屋・大阪・広島・福岡
- デポ数 全国約60箇所(パレットの倉庫)
- パレット保有枚数 約1,200万枚

JPRについて

創業の想い

肩の重荷に歯を食いしばって、運び去り運び来る
労働の姿が ありました。

私はこれを路傍のことと、漫然と見逃すわけには
いかない、
一身の栄達の道を捨てても、この人たちを救わね
ばならないと、心に決めました。

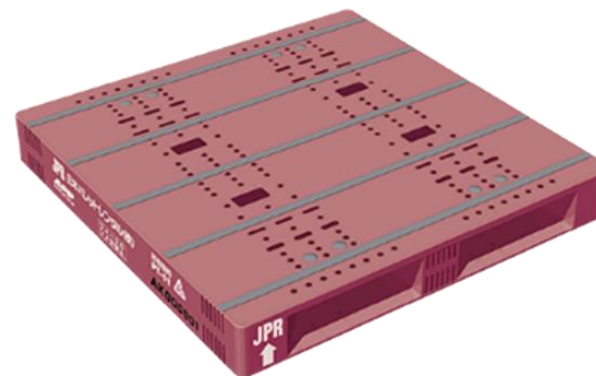


JPRの歴史は、物流現場で働く人への想いから始まりました。

創業者の想いを胸に、労働環境の改善、全体最適な運用に向けて、
設立から標準規格である11型パレットの普及に努めてまいりました。

「標準化・共同化」をコンセプトに、お客さま、パートナーの皆さまと
ともに、「標準パレットによる一貫パレチゼーション」普及への
挑戦を続けています。

<主力パレット>



プラ製11型片面二方差パレット
(PT-11)
サイズ:1,100×1,100×144mm
(L×W×H)
本体質量:約19kg～約26kg
最大積載質量:1トン
自動倉庫対応／ハンドリフト使用可

JPRについて

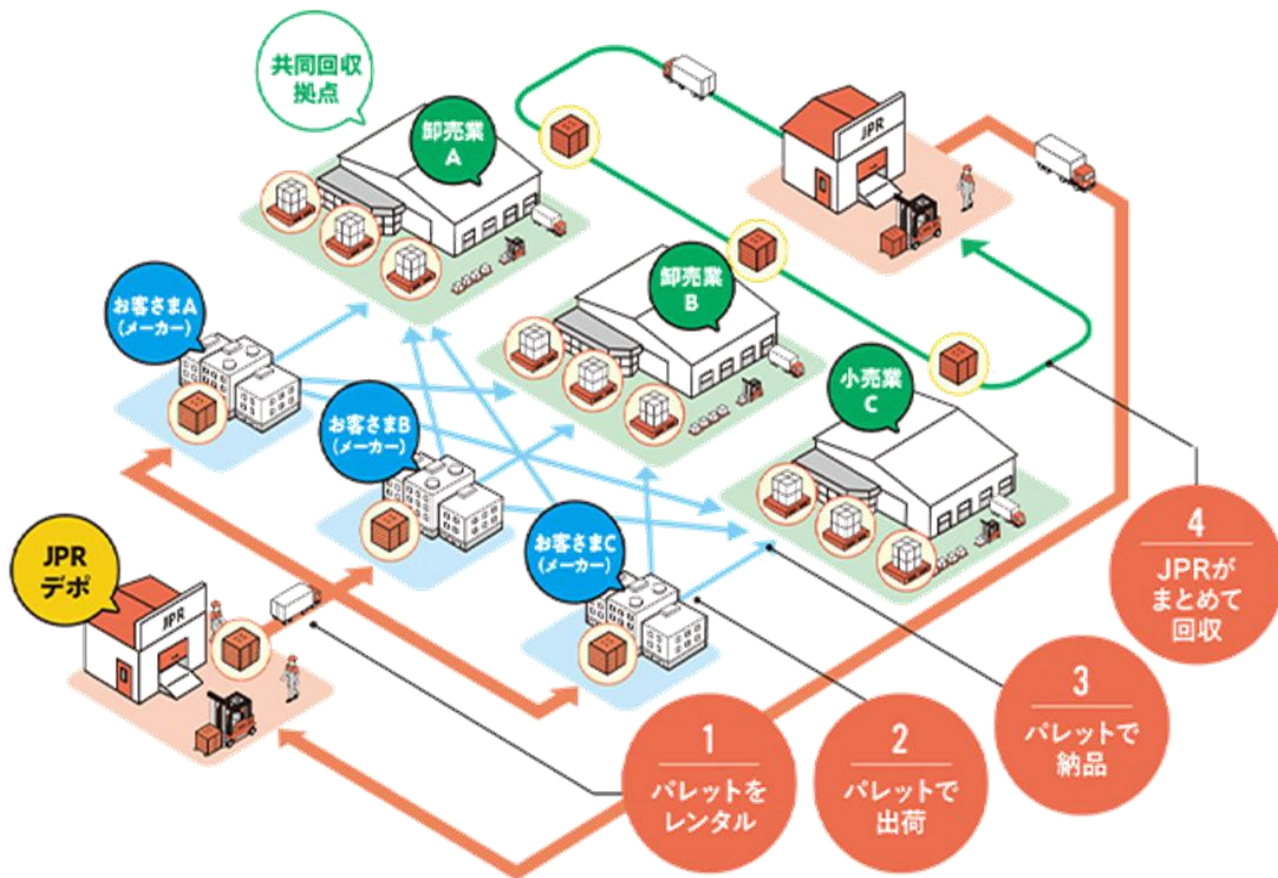
共同回収システム

● 年間出荷ご利用枚数

約**5,300**万枚

● 共同回収拠点

約**3,000**拠点



< 共同回収システムの効果 >

- ・リレー方式による、荷役作業の軽減。
- ・現場作業効率化によるセンター稼働率の向上。
- ・現場作業効率化による車両待機時間の削減。
- ・回収のための配車が不要で、返送コストを抑制。
- ・長期滞留リスクや流出リスクの解消。

< 社会的な意義 >

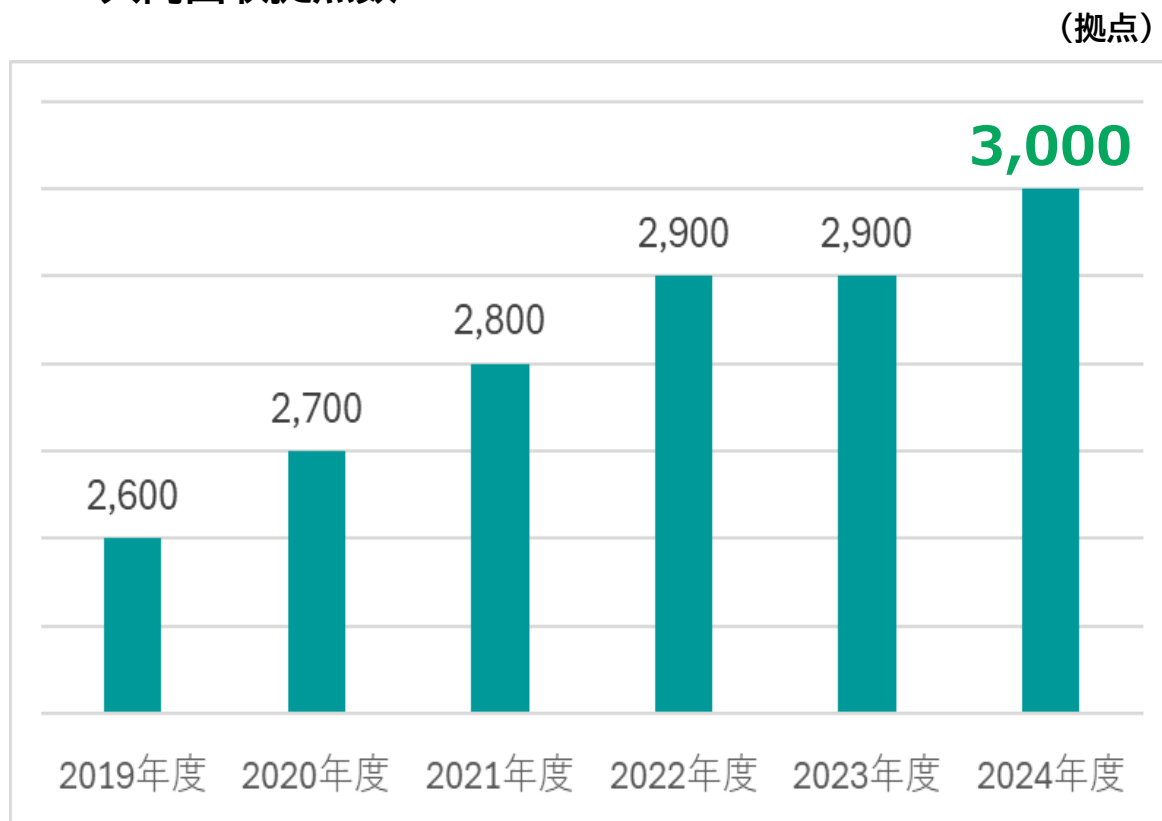
- ・パレット化促進による、荷役作業負担の軽減、効率化の促進。
- ・パレット循環利用・共同利用による、資源の有効活用。
- ・パレット共同回収による、パレット回収車両の削減 (=CO2の削減)。

「2024年問題への対応」「環境負荷軽減」
⇒ 持続可能な物流の実現

JPRについて

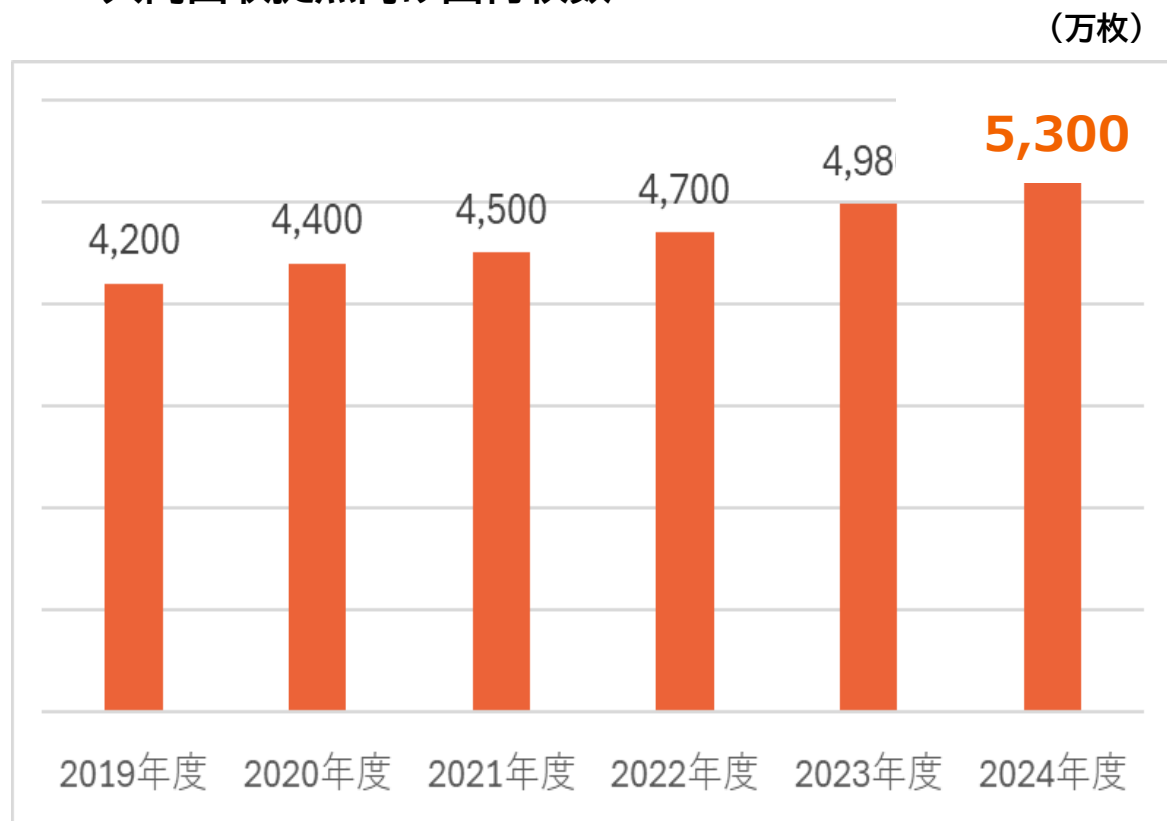
共同回収システム

< 共同回収拠点数 >



2019年度 ⇒ 2024年度 約115.3%

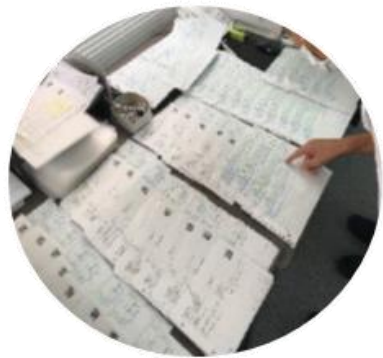
< 共同回収拠点向け出荷枚数 >



2019年度 ⇒ 2024年度 約126.2%

JPRについて

システムサービス



納品伝票の電子化 **epal DD Plus**

積載製品の伝票をデジタル化し
検品時間を短縮する



共同輸送 **TranOpt**

共同輸送を促進して
トラックの積載効率を高める



バース予約 **telesa-reserve**

トラック予約システムで
車両待機を削減する



パレットと情報の
ネットワーク

CASE① 冷凍食品メーカーA社様

CASE① 冷凍食品メーカーA社様

● 取組み前の課題

- ・ 物流現場で働く方々の労働環境改善
- ・ 荷役時間が長いことによる集車問題
- ・ 2024年問題への対応

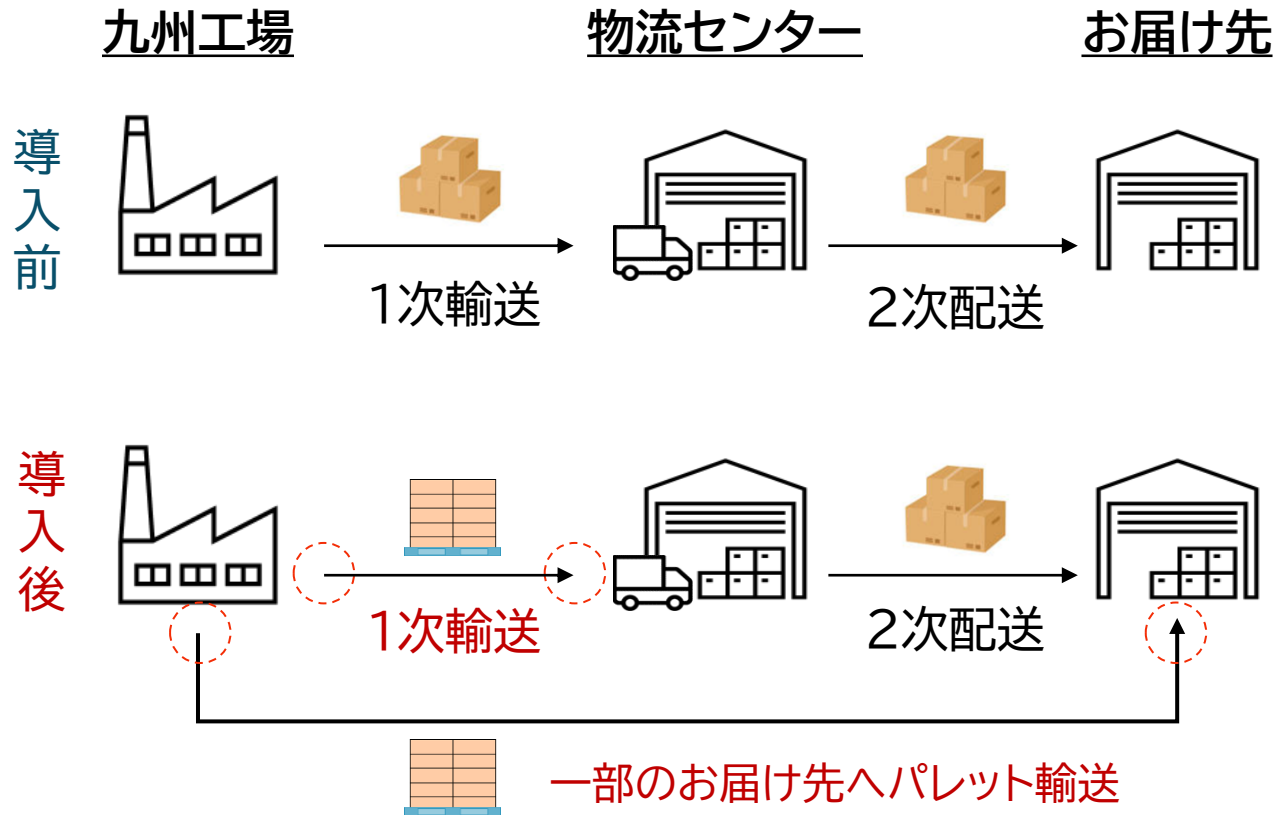
● パレット輸送に向けた課題

- ・ 11型パレットへの積載率が悪い(外装サイズが11型に合わない)
- ・ バラからパレット輸送による車両積載率の低下と車両台数の増加

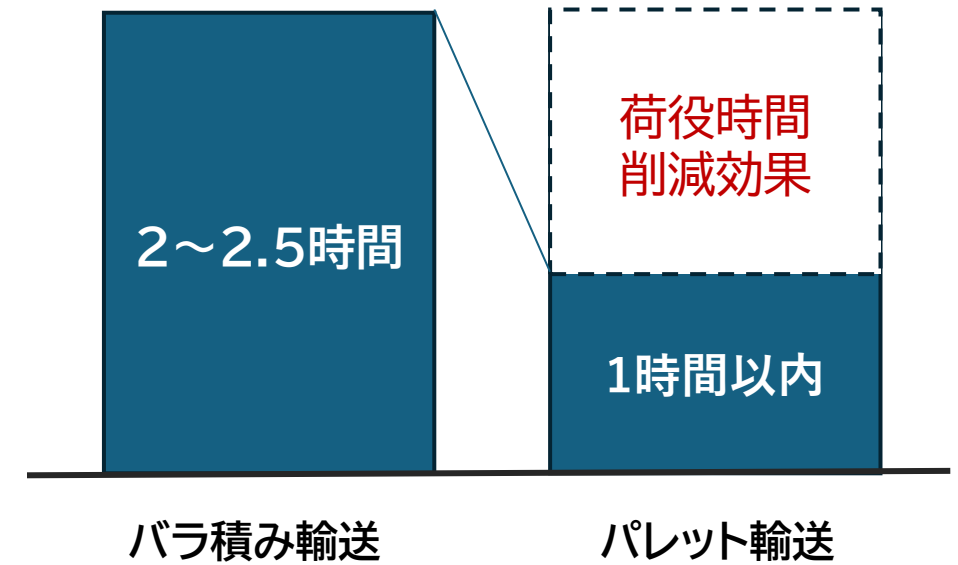
● パレット輸送への対策(POINT)

- ① 物流事業者との危機意識の共有し、連携して対策や計画を検討
- ② 設備投資(生産ラインや倉庫設備の改修)
- ③ 入数の変更等、外装サイズのモジュール化
- ④ 経営や他部門(生産部門、営業部門など)の理解や協力

CASE ① 冷凍食品メーカーA社様



<荷役作業時間の変化>



● 導入効果

- ・ 荷待ち、荷役作業時間が短縮し、集車がしやすくなった。
- ・ 出荷拠点のバース回転率が上がったことで、作業員の労働時間が短縮。

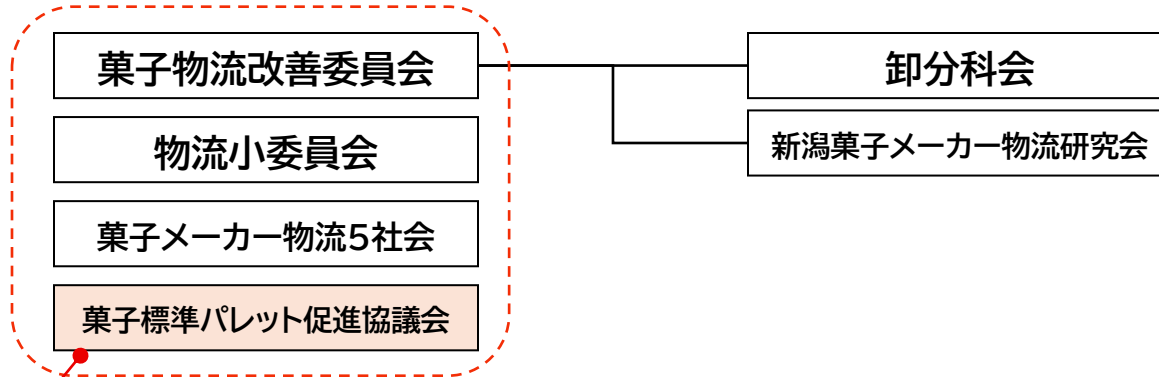
CASE② 菓子業界

CASE② 菓子業界

パレット標準化



情報共有・連携



「菓子物流(スナック・米菓系)におけるパレット標準化ガイドライン」

(1) パレットについて

- ① パレットの材質 : プラスチック製を推奨。
- ② パレットの平面 : 11型(1,100×1,100)を推奨、12型は継続検討。
- ③ パレットの高さ : JISのプールパレット(1,100×1,100×144(T11))を参考に、今後も検討。
- ④ パレット荷姿の高さ : 1段1,300mm以下(パレット高さを含む)と設定(上限値とし、各社実状で数値設定)

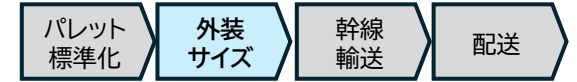
※一貫パレチゼーションに向けた共同回収・共同利用のあり方、レンタルパレットの活用方法については今後検討

(2) 今後の検討課題

商慣習の見直し、待機時間・作業時間の削減、外装サイズの標準化



CASE② 菓子業界



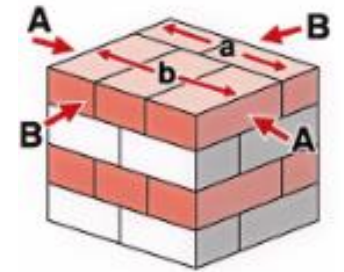
外装サイズの変更

① メーカーにおける外装サイズ変更

- 下記のような課題はありますが、外装サイズの変更が進んでいます

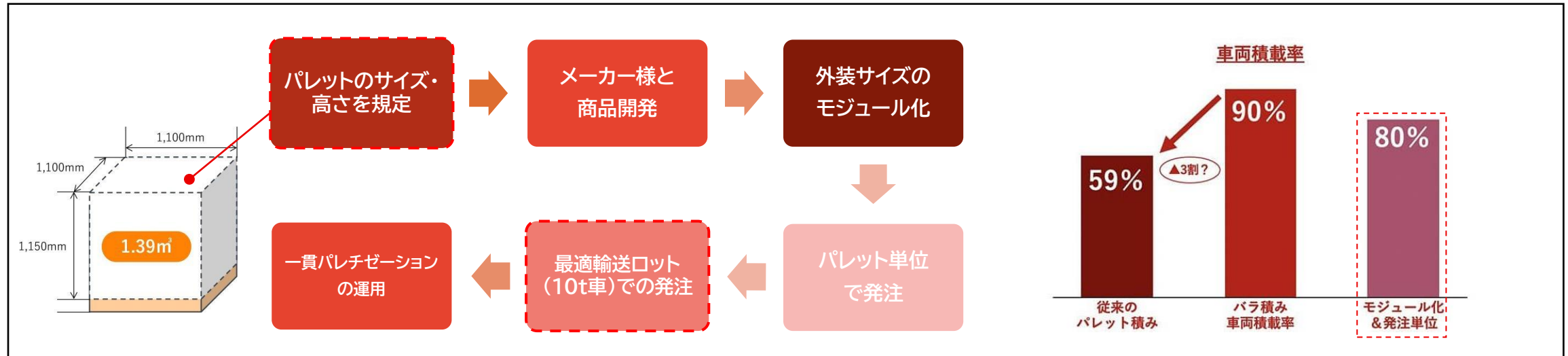
<外装サイズ変更の課題>

- 商品パッケージサイズの変更も必要となり、製造設備の設定変更等のスイッチングコストが発生する。
- 商品開発部門、生産部門、調達部門、営業部門等、多くの部門と連携して進めるため、時間がかかる。

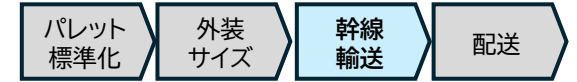


② 得意先主導による外装サイズ変更

- 得意先が主導して、PB商品の外装サイズ変更が実現



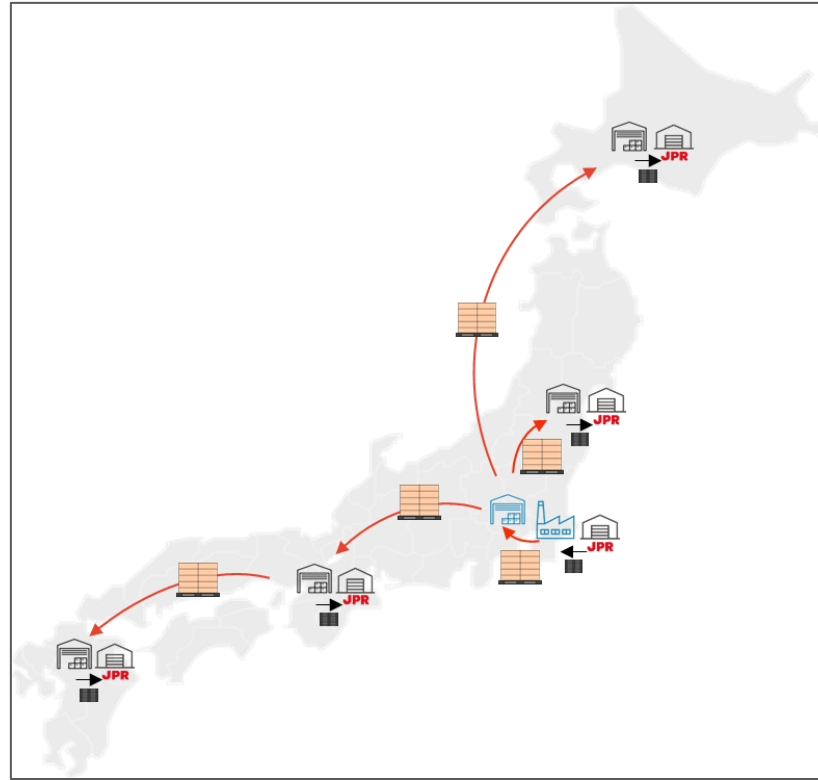
CASE② 菓子業界



1次幹線輸送

自社パレットを購入し、工場から近隣倉庫(マザーセンター)への移動および保管で利用されていましたが、この1, 2年でレンタルパレットを活用し、近隣倉庫からエリア倉庫(DC・TC)までパレット輸送が拡大。

< 関東に工場のある菓子メーカーB社さんの例 >



< 導入効果 >

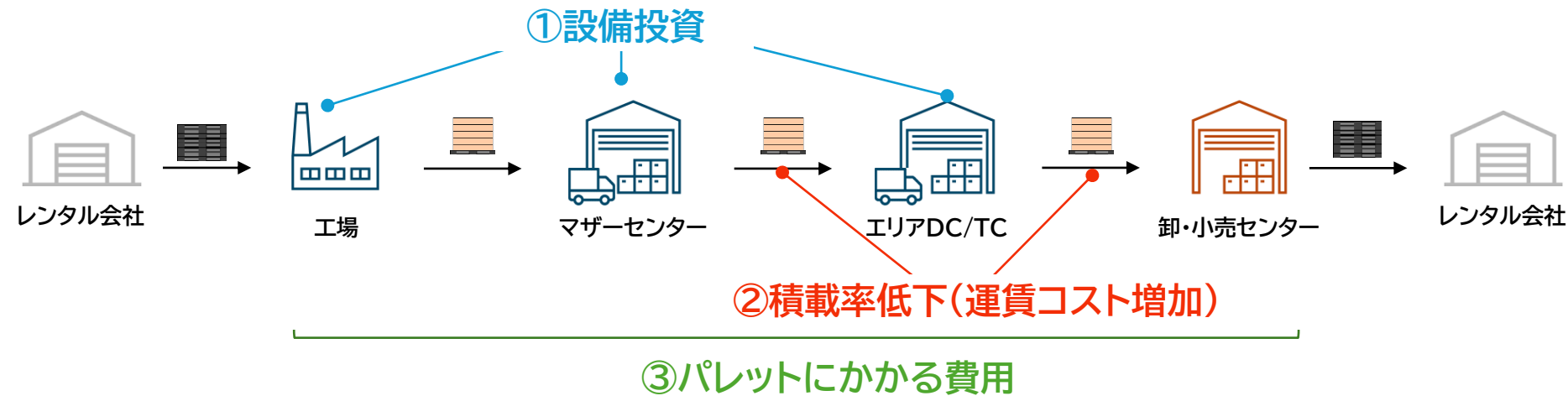
- 積みこみ、荷下ろし時間の短縮
- ドライバー拘束時間短縮 (ドライバーの確保)
- 空パレットの返回送が不要



物流事業者、倉庫事業者との
関係性が向上

CASE② 菓子業界

2次配送



< 課題と協議内容例 >

課題	協議内容
① パレタイザー、ライン改修等、工場の機械設備投資が必要 ① 当面は自社パレットもあるため、パレットチェンジャー等の機械が必要 ② 配送車両の積載率が低下し運賃コストが増加 ② 外装サイズの変更に時間がかかる ③ レンタルパレットの利用料	・ 発注単位(パレット単位、面単位) ・ 発注頻度(頻度を減らし、1回あたりの数量増加) ・ 納品時間の延長(車両回転数の増加) ・ リードタイムの伸長 ・ フォーク作業等の付帯作業 ・ レンタルパレット利用料の負担 ・ パレット納品のバース確保

CASE② 菓子業界



2次配送

① 菓子メーカーC社におけるパレット納品事例

- ✓ ドライバーの荷待ち、荷役時間短縮のため、バラ納品からパレット納品を検討
- ✓ パレット納品にあたって、得意先と納品ロットなどの条件を協議



バラ納品
平均1時間

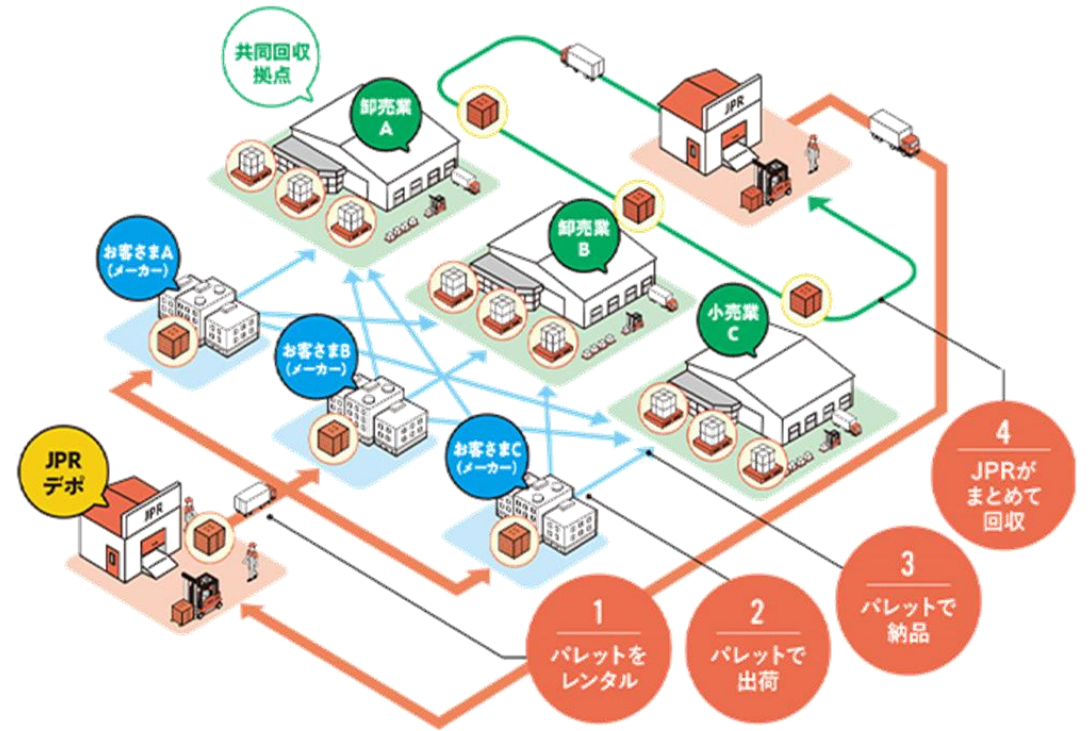
パレット納品
約20分

● 導入効果

- ・ 荷積み、荷下ろし時間が約66%短縮
- ・ 検品時の作業負荷も軽減
- ・ ドライバー拘束時間が短縮

② 共同回収システムでの出荷利用

菓子業界で共同回収システム出荷が増加しています。



23年度 ⇒ 24年度 約125%

JPR 日本パレットレンタル株式会社